榛名神社社報

発行日　平成九年七月十五日
発行所　沼田市榛名町〒二八五一
電話〇二七六　四五一二二
発行人　金子浩隆

榛名神社由緒

榛名神社は、沼田・利根発祥の地に鎮座し、三柱一座の神が祭られている。

埴山姫の命（はにやまひめのみこと）
日本武尊の命（やまとたけるのみこと）
菅原道真の命（すがわらのみちざねのみこと）
三柱
諏訪大神（すわおおかみ）　一座

日本武尊は上野国神名帳利根郡の部に従一位宝高明神として滝棚の栗林に鎮座せられ、菅原道眞命は従二位雷根明神として根岸（現在の社地）に祀られていた。

そして埴山姫命は享禄三年（一五三〇）に沼田万鬼斉顕が桑岩城から真向城に移る時、そこに祀られていた宝高明神を城の西下の碓根神の社に遷し、顕泰の妻の産土神である榛名大権現（埴山姫命）を勧請して二神を一社に祀り神社の名前を「榛名神社」と称した。

諏訪大神は神社の西の諏訪神社を明治四十一年に合祀した。

当社は沼田氏、真田氏、本多氏、黒田氏そして土岐氏と代々城主の尊崇を受け、特に本殿は元和元年真田伊豆守信吉公の奉建であり、木造大鳥居は老中本多伯耆守正永公の奉献である。

明治六年郷社に列し、昭和三年県社に格上げされたのであるが、昭和二十一年に社格廃止以来は宗教法人となり利根沼田の総鎮守と称せられている。

社頭講話

名誉宮司　金子安平

必ず守って下さいます

二十一世紀を前にして一番の悩みと云えば国内では神戸児童事件のような残虐な了為が平然で行われ、世界では地球規模の秩序が崩れ、人心が混乱し、世界が無秩序にかれとどまっている。

昔から迷ったら元へ返れと云います。今こそ人類延生の大きな時の手引き・案内役は最も粗末な神道が当るべきだと信じます。神道は美しい育くみ、清潔な民族によって長い年月の中に育くまれた日本心の真髄であります。神道は日本固有の文化ではありますが、外来文化とは常に融和し、決して独断・専横ではありません。だからこそ二十一世紀の指南役として最も適任であると信じております。

吾が榛名神社は古くから大利根の拠り所として祀られて参り神社（菅原道真命・埴山姫命）の二柱と大利根の開拓者から戦国争乱時の逃げ込む砦で農耕・畜産・文芸開発の時代を通じて広く尊敬せられた由緒ある神社であり、花の時代の建設に当っては何時でも誰でも皆との社前に集って祈願を続けて参りました。

神は人の敬によって威を増しまた神の恵によって運を添えと申します。御先祖が祈られたように何時でもお願いして下さい。榛名さまは必ず守って下さいます。きっと助けて下さいます。

世の中は変りますが、吾が榛名さまは変ることなくきっと私たちを守り続けて下さいます。

平成九年　祭事歴

一月一日　歳旦祭
毎月一日、朝八時、新しい年の新しい月の新しい日を祝し、朝日の豊栄登に一年の健康と幸福を祈願する。
二月一日　月次祭
二月十一日　紀元祭
三月一日　月次祭
四月一日　月次祭
四月八日　例大祭
御主神埴山姫命（榛名大神）の勧請・鎮座より、この日が大祭と定められ、一年で一番大切な祭となっている。元県社ということで、神社庁より献幣使を迎え、多勢の参列の下、五穀豊穣、氏子の繁栄と世界平和が祈願される。太々神楽の奉納も行われる。

五月一日　月次祭
六月一日　月次祭
六月三〇日　六月大祓（夏越の祓）
六月大祓は一年の上半期のそして師走大祓は下半期の罪・穢を祓い去る儀式である。宮司とともに参列者が祓（はらえ）の後（のち）、紙の人形を身代（みしろ）りとし、体の中の罪・穢を拭い取（とり）り、ワラでできたツトッコに入れ、川に流し去る。

七月一日　月次祭
八月一日　月次祭
八月三・四・五日　恒例大祭
「おぎょん」の名で親しまれている祇園祭は、京都の八坂神社の牛頭天王の祭礼から起こったものである。沼田では徳川時代には須賀神社（当時は牛頭天王宮）の祭典であったが、明治十年頃、祭の発展の為、榛名神社との合同の祭となり、現在では沼田全体の祭として、また北関東一荒祭として有名となった。

榛名さまが神輿におのりになり、氏子地域を巡幸され、四日には、御仮屋に恒例大祭が執り行われる。

12女町の代表が神を着用して祭典に奉仕

八月二十六日（旧七月二四日）　諏訪祭
明治に合祀された諏訪大神のお祭。沼田全体がお諏訪様（すわさま）の生子（うしこ）という考えから、この祭は沼田一円のお祭であったが、氏神の祭ではないのですべて一廻り小型で行われた。大正末期までは榛名に諏訪様のまんどうもあった。また、二四日には御祭神の御神徳に因み、必ず三粒以上の雨が降ると信じられている。

この祭は二四日が宵祭、二五日が本祭であるが、二五日は一年間、親睦を失った人々が一堂に会し、参拝以外は外出せずに、親和し舞の者の方がその家のカゲ見舞をすることとなっていた。